(2024年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部

2024/3/29

りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは3月29日(金)9:00現在 ※休日の実績は前営業日

	. = . = .									
		3月28日現在	4月	の -	予想		(月末値)			
USD	ドル・円 (円)	151.39	148.0	~	153.0	M	148.0			
030	高まる日銀利上げ観測	リ、まだまだ"盛	り上がり	が足	りない"	?				
	ユーロ・ドル (ドル)	1.080	1.06	~	1.10	M	1.06			
EUR	ユーロ・円 (円)	163.39	159.0	~	165.0	M	159.0			
	徐々に上値の重さが意識される展開									
	ポンド・ドル (ドル)	1.263	1.24	~	1.28	M	1.24			
GBP	ポンド・円 (円)	191.07	186.0	~	193.0	M	186.0			
	BOEの利上げサイクル	- 終了で上値重(()							
AUD	豪ドル・円 (円)	98.65	96.0	~	100.0	M	96.0			
NZD	NZドル・円 (円)	90.49	89.0	~	92.0	M	89.0			
NZD	高値圏でもみ合いも上値の重い展開に									
	日経平均 (円)	40,168	38,000	~	42,000	1	41,000			
株式	米利下げ期待の高まりや	GPIFの売り一巡に	はポジティス	ブも、	本決算を	控え様	子見か			
相場	NYダウ (ドル)	39,807	38,000	\sim	42,000	1	40,500			
	引き続きハイテク株力	が相場をけん引	すると見込	込む						
	日本 (%)	0.705	0.60	~	0.90	1	0.800			
長期	日銀の次回利上げを締	戦り込みに行く	***************************************	••••••						
金利	米国 (%)	4.200	3.90	~	4.40	M	4.000			
	6月利下げはダンディ	 ールか	L							

◆ 今月の注目ポイント

日銀追加利上げの材料が示される?

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
金融政策	0	【日銀金融政策決定会合】3/25-26に金融政策決定会合が開かれる。マイナス金利政策を含む大規模緩和の解除が3月に行われた今、市場の関心は今後の利上げ時期へと移っている。4月は展望レポートが公表されるものの、2%物価目標達成の確信を得て利上げを実施するにはデータの蓄積が不十分であろう。もっとも、7月会合に向けては、中小企業の賃上げや、FRBの利下げパスなどを確認する余地もあり、データ次第では利上げに踏み切る可能性もある。本会合では、次回以降の会合に向けた材料が示されるかが焦点となろう。
金融政策	0	【FOMC】4/30-5/1にFOMCが開かれる。3月のFOMCでは利下げ見通しを据え置いた他、パウエル議長は量的引き締めを近く減速する方針を示した。もっとも、茲許の強いインフレ指標を鑑みると、今会合では利下げに踏み切る可能性は低いというのが市場のコンセンサスである。それよりも、仮に資産圧縮ペースの減速が決定されれば、ハト派と見る向きが優勢となり、金利低下が一段と進み、調整していたハイテク株は上昇に転じるなどマーケットが動く可能性があり留意したい。

アジア涌貨見涌し

ľ		3月28日現在	4月	の子	想		(月末値)
	人民元・円	20.84	20.70	~	21.10	A	21.00
	バーツ・円	4.157	4.00	~	4.30	1	4.18
	ルピア・円	0.955	0.92	~	0.97	M	0.94

▶ 今月の重要日程

1日(月)日日銀短観(3月調査)

1日(月) 米 3月ISM製造業

3日(水) 米 3月ISM非製造業

5日(金) 米 3月雇用統計

10日(水) 米 3月CPI

11日 (木) 欧 ECB理事会〈結果発表〉

15日(月) 米 3月小売売上高

19日(金) 日 3月CPI

25日(木) 米 24/1QGDP

26日(金) 日 日銀金融政策決定会合

26日(金) 米 3月個人所得・消費支出

30日(火) 欧 24/1QGDP

◎注意事項

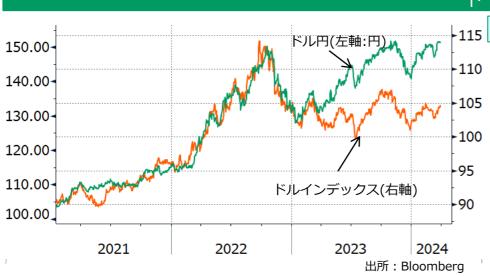
りそなマーケットフラッシュマンスリー &アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部 りそな銀行 国際事業部

2024/3/29

◆ 今月の相場見通し① 為替(ドル・ユーロ)



ドル円

米ドル円 148

148.00 – 153.00円

高まる日銀利上げ観測、まだまだ"盛り上がりが足りない"?

110 3月のドル円相場は150円台で始まり、日銀の利上げ観測の高まりとともに一時146円台まで下落したものの、日銀会合とFOMC通過後は材料出尽くし感が強まり、再び150円台に回帰した。
105 日銀会合では17年ぶりの利上げ、8年ぶりのマイナス金利解除が実施され、名実ともにYCCの撤廃、資産買い入れの終了、オーバーシュート型コミットメントの廃止等、包括的な政策変更と
100 なった。「当面、緩和的な環境が続く」との文言が注目されたが、総合的に見たスタンスはニュートラルである。次の利上げに対してもオープンと見るべきだろう。

FOMCは足元の経済の底堅さやインフレ再燃懸念のあるなかでも、予想以上に八ト派スタンスを維持した。パウエル議長の記者会見からも、既に6月利下げに向けて動いている気配が感じられる。いずれの材料もドル円にとっては下落(USD安JPY高)材料であるが、イベントを無事通過した安心感からか、直後の反応は逆となっている。ただし今後のゼロ金利解除や国債買い入れの縮小のハードルを下げ、イベント化しなかった点には日銀の手腕はまさに老獪である。債券市場では年内の追加利上げが織り込まれつつあり、円金利には先高観がある。為替市場ではまだ"盛り上がりが足りない"が、4月展望レポート等がタカ派姿勢が滲めば、徐々に上値が重くなるだろう。

ユーロ



ユーロドル ユーロ円 1

1.06 – 1.10ドル

159.00 – 165.00円

-150 <u>徐々に上値の重さが意識される展開</u>

3月のEURは、上旬は月初に発表された2月のユーロ圏消費者物価指数が市場予想比上振れたことや、ECB理事会で4月利下げの可能性が低下し底堅く推移。その後は強い米国物価指標を140 受けたFRBのタカ派化懸念やその剥落で上下、その後スイス中銀が市場予想に反し利下げを行っ135 たことに連れ安となるなど、各国金融政策に振らされながらも前月末比横ばいまで上昇幅を縮小。対円では日銀決定会合後に一段と上昇し、2008年以来となる165円台を付ける場面もあった。4月のEURは上値の重い展開を見込む、ECRO知回利力では16月とのファインは7が形式される

4月のEURは上値の重い展開を見込む。ECBの初回利下げは6月とのコンセンサスが形成されつつある中、焦点は米国の利下げ開始時期及び欧米ともに今後の利下げペースとなろう。米経済は引き続き堅調な中で、米利下げ期待は後退する可能性があり、EURの上値を抑えよう。対円では高値圏でもみ合いを見込むが、日銀はマイナス金利を解除したものの、円安基調に変わりはなく、4月の日銀金融政策決定会合での展望レポートの内容次第では、上値が重くなろう。

◎注意事項

りそな マーケットフラッシュマンスリー &アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部 りそな銀行 国際事業部

2024/3/29

◆ 今月の相場見通し② 為替(ポンド・豪ドル・NZドル)



下 ン ド

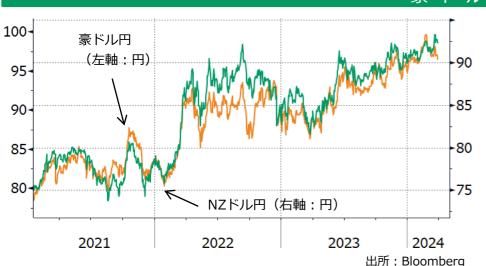
ポンドドル **1.24 – 1.28**ドル ポンド円 **186.00 – 193.00**円

BOEの利上げサイクル終了で上値重い

3月のGBPは上旬は上昇したものの、強い米国物価指標を受けたFRBのタカ派化懸念やその 剥落で上下、その後21日の金融政策決定会合(MPC)で利下げサイクルの終了が示唆されたこ とから下落し、前月末比横ばい水準となっている。対JPYでは日銀のマイナス金利解除後に一段と 上昇、2015年来となる193円台に乗せる場面もあった。

4月のGBPは上値の重い推移を予想する。3月の金融政策決定会合(MPC)では5会合連続で据え置きが決定も、投票結果は7対1と前回まで利上げを主張したメンバーが据え置きに転じた。また声明文には利下げを示唆する文言が追加されるなど、ハト派サプライズとなった。また米国経済の底堅さが意識される中で、米国の利下げペース鈍化リスクもあり、GBPの上値を抑えよう。対円では高値圏でももみ合いを見込むが、日銀はマイナス金利を解除したものの、円安基調に変わりはなく、4月の日銀金融政策決定会合での展望レポートの内容次第では、上値が重くなろう。

豪ドル・NZドル



豪ドル円

96.00 – 100.00⊞

NZドル円

89.00 - 92.00円

高値圏でもみ合いも上値の重い展開に

3月のオセアニア通貨は対円で上昇した。日銀はマイナス金利の解除に踏み切ったものの、事前に相当に織り込まれていたことや、今後の日銀の利上げペースが緩やかなものになるとの見方が改めて広がり、一段と円安が加速。豪ドルは2014年以来の100円台、NZドルは2015年以来となる93円台に乗せる場面もあった。

4月のオセアニア通貨は介入警戒感も燻る中、高値圏でのもみ合い推移を見込む。豪中銀、NZ中銀ともに利下げサイクルが終了したと見られるが、コモディティ価格の上昇やリスク選好の流れもありオセアニア通貨は底堅い推移が継続している。一方、3/21に発表されたニュージーランドの第4四半期GDPは2期連続のマイナスとなったことでテクニカルリセッション入りとなったことや、オーストラリアも景気に減速感も見られることから上値も限定的となろう。また日銀はマイナス金利を解除したものの、円安基調に変わりはなく、一段の政策変更を迫られる可能性もある。4月の日銀金融政策決定会合での展望レポートの内容次第では、上値が重くなろう。

◎注意事項

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、<u>弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。</u>また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。<u>取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。</u>

◎注意事項

りそなマーケットフラッシュマンスリー &アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部 りそな銀行 国際事業部

2024/3/29

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利



日経平均

38,000 – 42,000円

米利下げ期待の高まりやGPIFの売り一巡はポジティブも、本決算を控え様子見か

米ハイテク株が調整したことや、日銀のマイナス金利解除を巡って円高に振れたことを受け、日本株も調整したが、足元で日経平均は2月終値を上回って推移している。3月FOMC以降6月利下が期待が高まりつつあることや、3月末でGPIFのリバランス売りが一巡することで、バリュエーション面からの下押し圧力は弱まりつつある。好材料が出れば株価が上昇する可能性は高いが、5月以降に本決算シーズンを控え、積極的に上値を追う展開とはなり難いだろう。

NYダウ

38,000 – 42,000ドル

引き続きハイテク株が相場をけん引すると見込む

一時は高インフレの粘着性を警戒して金利が上昇したことから株価も調整したが、FOMCでは 幾分八ト派的なスタンスが示され、NYダウは2月末の高値近辺まで値を戻した。今後もインフレ動 向次第で金利が振れることはあろうが、過度な悲観は解消しつつある。一方で、3月中旬に行わ れたエヌビディアの年次会議や米マイクロンの好決算はポジティブ材料であり、4月以降は、再びAI 関連株への注目が集まると思料する。

長期金利見通し



日本国債10年

0.60 - 0.90%

日銀の次回利上げを織り込みに行く

先月は日銀がマイナス金利解除を含む大幅な政策変更に踏み切ったが、事前に多くが報道されていたことや、政策変更後も緩和的な環境が続くことが強調されたことから円金利の反応は限定的。一方、為替が円安に振れていることや、春闘賃上げ率が想定を大幅に上回っていることから、日銀の次回利上げを織り込む動きも活発化してきている。4月の展望レポート等をきっかけに追加利上げが本格的に織り込まれ始めれば、円金利は一段の上昇が見られるだろう。

米国債10年

3.90 - 4.40%

6月利下げはダンディールか

先月のFOMC後の記者会見にてパウエル議長はハト派的なスタンスを維持した。経済が底堅くインフレ再燃の懸念も燻るなか、ややスタンスをタカ派シフトする可能性もあったが、ドットチャートにおける2024年利下げ予想回数も3回を維持し、ロンガーランも微修正に留まったことから、市場での金利先高観は後退している。FRBは6月利下げ開始を念頭に動いているものと見られ、米国債には買い安心感がある。金利が上昇した局面では押し目買いが入りやすいだろう。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、<u>弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。</u>また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。<u>取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。</u>

<u>ラッシュマンスリー</u> 国FXフラッシュ (2024年4月

りそなホールディングス 市場企画部 りそな銀行 国際事業部

2024/3/29

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨(アジア)

		3/28	3月の相場推移	4月の予想	見通し
中	人民元/円	20.84 20.36 ~ 21.03		20.70~21.10	中国当局は景気浮揚のための人民元安を容認へ 3月は米国債金利が低下したところでドル/人民元も一時的に低下する局面があった ものの、概ね7.20近辺の推移が続いた。しかし、3月下旬にはそれまで防衛してきた
国	ドル/人民元	7.263	7.17~7.28	7.23~7.30	7.20よりもドル/人民元が上昇することを容認した。当面は中国当局による景気重視の姿勢によって、ドル/人民元は想定レンジの上限近辺で推移しそうだ。
タ	バーツ/円	4.157	4.12~4.21	4.00~4.30	セター首相は利下げを要求もFRBより前に利下げには転じ辛い 3月のドル/バーツは、米インフレ指標の上振れで米金利が上昇し、バーツ安が進行。 セター首相は中央銀行へ利下げを要求しているが、ファンダメンタルズに特段の問題が
タイ	ドル/バーツ	36.48	35.36~36.54	35.0~37.0	ない中でFRBより前に利下げには転じ辛かろう。4月は米金利の低下から両国金利差は縮小するとみるが、政情不安の問題もあり、一進一退で推移しよう。
ネイ	100ルピア/円	0.955	0.93~0.97	0.92~0.97	インドネシア経済の見通しは改善しつつある 3月のドル/ルピアは、FRBの利下げ期待が後退する中で米金利が上昇し、ルピア安 が進行。もっとも、FOMCはややハト派的で、こうした動きには一服感が出ている。加
シン アド	ドル/ルピア	15,855	15,565~15,888	15,300~15,800	えて、インドネシア経済の見通しは改善しつつあり、ジャカルタ総合指数もEPSが上昇をけん引している。4月はややルピア高が進行しよう。







◎注意事項

りそな マーケットフラッシュマンスリー &アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年4月号

2024/3/29 りそなホールディングス 市場企画部 りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

			2024年		2025年	ポイント				
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	小1ント				
by the first	レンジ	143~153	138~148	143~153	137~147	日米金利差縮小により上値が重くなる。秋から年末に				
ドル円	期末値	145	140	145	140	かけては米大統領選挙に絡みリスクオンで上昇。 2025年以降は再び日銀の利上げが意識される。				
2-0	レンジ	1.00~1.15	0.95~1.10	0.95~1.10	1.00~1.20	インフレの着実な低下や域内の景気減速からECBは夏				
ドル	期末値	1.05	1.03	1.03	1.08	までの利下げ開始を示唆、今後は利下げペースが注目 となる。米国対比利下げペースが早まる可能性から上				
1-0	レンジ	145~165	130~155	130~155	135~160	値も重いが、利下げで景気の底入れとなれば、底堅さ を取り戻そう。対円では日銀利上げへの思惑から上値				
円	期末値	153	145	150	152	重い。				
ポンド	レンジ	1.10~1.40	1.05~1.30	1.05~1.30	1.05~1.30	BOEの利上げサイクルの終了が示唆され、次の一手は				
ドル	期末値	1.20	1.15	1.15	1.20	利下げの可能性が高まり、上値は重い。一方、欧米対 比で利下げ開始時期は遅れることが見込まれており、				
ポンド	レンジ	170~195	160~185	165~190	165~190	下落ペースは緩やかになると見る。対円では日銀利上				
円	期末値	175	161	167	168	げへの思惑から上値重い。				
ドル	レンジ	6.90 ~ 7.3 0	6.80 ~ 7.20	6.70 ~ 7.10	6.60 ~ 7.00	中国当局は通貨価値防衛から景気浮揚へと軸足を移しつ				
人民元	期末値	7.00	6.90	6.80	6.70	つあり、一定程度の人民元安を容認する姿勢を採った。 しかし、景気支援策による中国経済の回復に加え、FRB				
人民元	レンジ	20.72 ~ 20.96	20.29 ~ 20.56	21.34 ~ 21.54	20.76 ~ 21.00	の利下げによる米中金利差の縮小はドル人民元を押し下				
円	期末値	20.71	20.29	21.32	20.90	げていく。				
豪ドル	レンジ	90.00~100.00	80.00~100.00	80.00~100.00	75.00~95.00	コモディティの上昇やリスク選好から底堅いが、豪中 銀のスタンスが中立化する中では上値が重くなろう。				
円	期末値	95.00	90.00	90.00	85.00	日銀利上げの思惑も徐々に重しに。				
タイバー	レンジ	3.50~4.50	3.50~4.50	3.70~4.80	3.70~4.80	観光業の回復、景気支援策から底堅く推移するが、日				
ツ円	期末値	4.15	4.20	4.35	4.35	銀政策修正の思惑で徐々に下落へ。				

◎注意事項

その他

◎注意事項をよくお読み下さい

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> <u>&アジア・新興国FXフラッシュ</u> (2024年4月号)

米国

日本

りそなホールディングス 市場企画部 りそな銀行 国際事業部

2024/3/29

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		
4/1(月)	1-3月期日銀短額	3月ISM製造業最況指数	(中)3月製造業PMI	4/15(月)	2月
4/2(火)	10年債入札	2月製造業受注			
4/3(水)		3月ADP雇用統計		4/16(火)	†
		3月ISM非製造業景況指数			
4/4(木)	30年債入札	2月貿易収支			
4/5(金)	2月家計調査	3月雇用統計		4/17(水)	3月
4/8(月)	2月毎月勤労統計(連報)			4/18(木)	
	3月景気ウォッチャー調査				
4/9(火)	5年債入礼	3年債入札		4/19(金)	3月
4/10(水)	3月企業物価指数	10年債入札		4/22(月)	
		З ДСРІ		4/23(火)	2年
		FOMC議事要旨			
4/11(木)	20年債入札	30年債入札	(欧) ECB定例理事会	4/24(水)	
		3月PPI	(中) 3月CPI	4/25(木)	
			(中) 3月貿易統計		
4/12(金)				4/26(金)	植田
				_	lE

4/15(月)	2月機械受注	3月小売売上高	(他)IMF・世界銀行総会(〜 21日)
		4月NY連銀製造業景気指数	
 4/16(火)		3月住宅着工・許可件数	(中) 1-3月期GDP
			(中) 3月生産・小売・投資
			(独)4月ZEW景気指数
4/17(水)	3月貿易統計	20年債入札	
4/18(木)		3月中古住宅販売	(他) G20財務相・中央銀行総 裁会議(於ワシントン)
		4月フィラデルフィア連銀製造業 泉気指数	
4/19(金)	3月消費者物価指数		
4/22(月)			
4/23(火)	2年債入札	2年債入札	(欧) 4月PMI (速報値)
		3月新築住宅販売	
4/24(水)		5年債入札	(独)4月IFO企業景況感指数
4/25(木)		1-3月期GDP(速報値)	
		7年債入札	
4/26(金)	植田日銀総裁定例会見	3月個人所得・消費支出	
	日銀金融政策決定会合(結果発表)		
4/29(月)	(昭和の日)		
4/30(火)	3月鉱工業生産	4月消費者信頼感指数	(中) 4月PMI
	3月住宅着工件数		(中) 4月製造業PMI
	3月労働力調査		
		<u> </u>	



りそなマーケットフラッシュマンスリー &アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部

2024/3/29

でなホールティングス 市場企画部 りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

[2/23~2/29]

◎不動産開発の不況により、地方政府8割の土地収入が減少

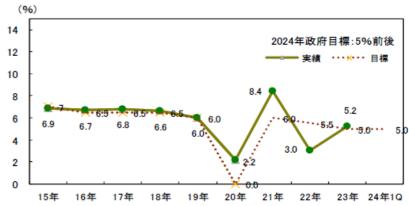
中国の不動産市場の低迷を背景に、地方財政にとって重要な財源の土地使用権譲渡収入が落ち込んでいる。2023年28省・自治区・直轄市のうち、約8割に当たる22省・自治区・直轄市の土地収入が前年からマイナスとなった。中国の地方政府の土地収入は、2009年の1兆4,000億元から、2021年には過去最高の8兆7,051億元まで拡大。昨年では5兆7,996億元に落ち込んでいた。住宅販売の不振や不動産企業のキャッシュフロー悪化などにより、デベロッパーの土地購入が減少していることが主な原因である。

$[3/1 \sim 3/7]$

◎GDP目標「5%前後」維持

中国の李強首相は5日、今年の国内総生産(GDP)の実質成長率目標を「前年比5%前後」に設定すると発表した。前年と同じ目標で、経済の減速阻止に注力する決意を示した。目標達成の難易度が上がっている為、政府には経済政策の強化が求められている。その中で、外資投資誘致に注力する意向も表明。「対中投資のネガティブリストを縮小、製造業参入規制を全面的に撤廃、電気通信、医療等サービス業への参入規制を緩和する等」と明らかにした。

中国におけるGDP増加率の推移





◎注意事項

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ (2024年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部 りそな銀行 国際事業部

2024/3/29

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

$[3/8 \sim 14]$

◎1-2月輸出7.1%増、自動車等堅調

中国税関総署が7 日発表した2024 年1月-2月の貿易統計によると 、輸出額は日本円換算で前年同期比7.1%増の約78 兆4,000 億円 だった。プラスは3 期連続で、前年同期の数値の低さが伸びに繋 がった要因の一つである。自動車や船舶、家電等が堅調、輸入額 もプラスになった。王文濤商務相は3月の貿易が前年同期からや や落ち込むとの見方を示した。足元の貿易拡大策として、企業へ の金融支援や国内外の展示会出展支援等に着手していると説明。 中長期的な貿易の質の高い発展には、中間製品の貿易拡大、越境 電子商取引を活用した輸出の促進等に乗り出すと明らかにした。

$[3/15\sim21]$

◎ 27年までに設備投資25%増、政府が新目標を設定

中国国務院は13日、設備投資と耐久消費財購入を促進する計画 を発表した。設備投資は主要産業の年間の投資額を2027年までに 23 年比25%以上増やすとの目標を設定した。今回の計画により、 27 年までの各年の国内GDP 成長率は0.4%上振れすると予想され ている。国務院は、足元の設備投資が力強さに欠けている事を重 くみたと見られ、少なくとも財政出動を強化することを強調した 。投資・買い替えに様々な補助金を支給する考えだ。耐久消費財 については自動車等の分野で積極的に買い替えキャンペーンを展 開すると示した。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2
実質GDP成長率	%	-	-	6.3	-	-	4.9	-	-	5.2	-	-
消費者物価上昇率	%	0.1	0.2	0	-0.3	0.1	0	-0.2	-0.5	-0.3	-0.8	0.7
都市部調査失業率	%	5.2	5.2	5.2	5.3	5.2	5.0	5.0	5.0	5.1	5.2	5.3
輸出額	10億ドル	288.2	280.9	283.4	280.8	283.9	296.5	274.2	292.7	303.5	307.7	220.3
輸入額	10億ドル	203.1	215.8	214.0	201.5	216.6	221.3	218.2	223.3	228.2	222.3	180.6
経常収支	100万ドル	-	-	146,257	-	-	209,038	-	-	264,238	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,204.8	3,176.5	3,193.0	3,204.3	3,160.1	3,115.1	3,101.2	3,171.8	3,238.0	3,219.3	3,225.8
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.89	7.00	7.16	7.19	7.25	7.30	7.31	7.22	7.14	7.17	7.19

※ 対ドル為替レート:期末又は月末値 主要政策金利:1年物貸出基準金利 出所: Bloomberg

りそな マーケットフラッシュマンスリー &アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年4月号)

2024/3/29

りそなホールディングス 市場企画部 りそな銀行 国際事業部

"上海下午茶"(上海からティータイム)

りそな銀行上海駐在員事務所

○「金」に熱中する中国の若者

数年前なら、ゴールドジュエリー市場と言えば、その中心は中国の中高年女性で した。しかし今金ブームは若者の間にも広がっています。

中国では2年ほど前から、金の粒をメインにした丸い「1グラムの金」がヒット商品となりました。それをきっかけに、金を購入する若者が増えました。若者にとって一度に20グラムや50グラムの金を購入することは負担が大きいかもしれません。ただ、1粒500元~600元(1元は約20.8円)なら、毎月コーヒーやミルクティー代を節約して金の粒を買う資金にしようと考える人が多いようです。定期的に1グラムの金を購入して小さいガラス瓶に入れて集め、将来必要な時に、自分が好きなアクセサリーと交換できるという、新たな購入スタイルとなりました。

いま多くの金のブランドが、積極的に若者をターゲットにし、デザインが以前と 比べ洗練されてきたほか、干支をモチーフにした商品や人気キャラクターとのコラ ボ商品などを打ち出し、若者独特の金の商品に対するニーズを満たすと同時に若者 の心も掴んでいます。

一方、それを購入する若者側からすると、今の中国の不動産価格の先行きに不安があり、株式はリスクが高く手が出せない、銀行預金は金利が低いという様々な状況の中で、1グラムあたりの金価格は過去12ヶ月に16.35%上昇しました。若者たちにとって、投資をしながら、安全資産として価値がある程度維持できる金は、今、積極的に購入される最も直接的な理由ではないかと思われています。

○中国、若者の間で「搭子文化」が人気

中国のネットで話題になった「搭子文化」は、若者に最も人気がある社交文化と言われます。「搭子」は「2023年の流行語トップ10」にも選ばれています。「搭子」とは元々上海の方言、「一緒にトランプをする人」という意味でした。現在、中国のネット上で話題の「搭子」とは新しい人間関係の一種で、「メシ搭子」、「コーヒー搭子」、「旅行搭子」等、具体的な活動を一緒に楽しむ仲間を指しています。

中国のライフスタイルに特化したソーシャルメディア・プラットフォーム「小紅書(Red)」では「搭子-新しい社会関係」というトピックスが4000万回以上閲覧され、「搭子を探しています」というトピックスもブームになっています。

「搭子」は伝統的な友情関係よりも時間や感情を多く費やす必要がなく、気楽にお互いの目的を楽しめるという特徴があります。従来の社交とは異なり、搭子社交は自己中心的で、各自のニーズを満たし合い、時間と労力を節約できると言えます。例えば、ネットを通じて見つけた「旅行搭子」は、旅行中にお互いに写真を撮ったり、具体的な旅行計画を立てたり、一緒に楽しい旅行時間を過ごしますが、旅行後にコミュニケーションはないのも普通です。

この社交方法の広まりは、一面から見れば、個人主義と孤独感が中国の若者の中で広まっていることを体現しているもしれません。しかし別の角度から見ると、人々は社交を嫌っているわけではなく、忙しい生活の中で友達を作る時間を節約するために、新しい効率的な社交方法を探し続けていると言えます。

◎注意事項

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ

りそなホールディングス 市場企画部

2024/3/29

りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆1月の国内経済、改善もペースは穏やか

穏やかなペースだとの見方を示した。鉱工業生産指数は前年同月比2.9%下落し、16カ月 連続の縮小となった。自動車全体の生産は落ち込んだものの、乗用車の生産は増加したた め下落幅は縮小した。食品・飲料、ゴムとプラスチックは好調だった。民間投資指数は同 0.2%減少したが、前月から改善傾向にある。機械・設備投資は伸び、建設投資も工場建設 の増加を受けて拡大した。民間消費指数は同1.5%増加した。観光収入は客数増加に加え、 滞在期間の長期化を背景に好調に推移している。

◆2023年のGDP、1.9%に減速

タイ国家経済社会開発委員会(NESDC)が発表した2023年の国内総生産(GDP)成長率 は前年に対し1.9%増の成長にとどまり、前年の2.5%増から鈍化した。要因として、輸出 の不振等が響いたことが挙げられた。部門別では、農業分野と非農業分野は1.9%増とそれ

ぞれ伸びた。非農業のうち、工業が2.4%減少した一方、サービス業は4.3%成長した。

タイ中央銀行は、1月の国内経済の成長は前月より改善したものの、景気回復に勢いはなく、NESDCは、2024年のGDP成長率予測を前回のプラス2.7~3.7%からプラス2.2~3.2%に 下方修正した。

◆2024年2月CPI、5カ月連続で下落

タイ商務省が発表した2024年2月の一般消費者物価指数(CPI)の平均値は、前年同月比で 0.77%下落した。分野別では、食品・飲料が前年同月比0.97%減、非食品が同0.63%減と それぞれ下落した。2024年1~2月のCPIは前年同期比0.94%下落となった。

◆タイ中央銀行、政策金利を据え置き

タイ中央銀行は2月7日、2023年11月の会合に続いて2会合連続で政策金利(翌日物レポ金 利)を2.50%に据え置くことを決定した。

主要経済指標

く日次データン

項目	単位	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2
実質GDP成長率	%	-	-	1.8	-	-	1.4	-	-	1.7	-	-
消費者物価上昇率	%	2.7	0.5	0.2	0.4	0.9	0.3	-0.3	-0.4	-0.8	-1.1	-0.8
失業率	%	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-
輸出額	100万ドル	21,794	24,459	25,395	22,143	24,280	25,476	23,579	23,480	22,792	22,650	-
輸入額	100万ドル	23,000	25,994	24,528	24,121	23,920	23,384	24,411	25,879	21,819	25,408	-
経常収支	100万ドル	54	-2,832	1,725	-1,054	484	3,171	665	-1,244	2,107	-191	-
外貨準備高	10億ドル	223.5	220.8	218.2	220.7	216.9	211.8	210.9	219.1	224.5	221.6	222.4
主要政策金利	%	1.75	2.00	2.00	2.00	2.25	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50
対ドル為替レート	バーツ	34.3	34.3	34.9	34.6	35.0	35.9	36.5	35.5	34.9	35.2	35.9

※ 対ドル為替レート: 期末又は月末値 主要政策金利:タイ翌日物レポ金利

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

出所: Bloomberg

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ (2024年4月号)

りそなホールディングス 市場企画部 りそな銀行 国際事業部

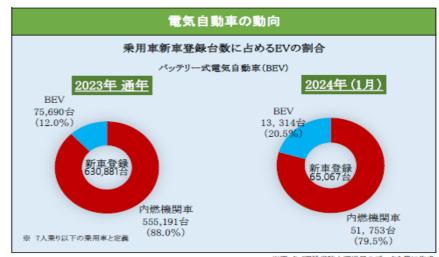
2024/3/29

タイにおける自動車産業の動向

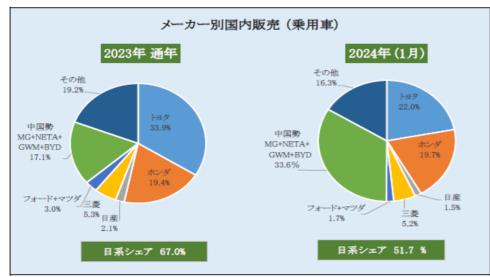
りそな銀行バンコック駐在員事務所

			生産・国	内販売・	輸出の動向	9		
			2021年	2022年	2023年	2024年 (1月)	前年同月比(%)	1月
【台数】		(台)				(1/1)	(70)	
四輪	生産台数	乗用車	599,844	600,839	648,803	52,509	92.7	52,509
		商用車	1,085,861	1,282,676	1,192,883	89,593	84.8	89,593
		습計	1,685,705	1,883,515	1,841,686	142,102	87.5	142,102
	国内販売台数	乗用車	251,800	265,069	292,505	23,412	102.4	23,412
		商用車	507,319	584,319	483,275	31,402	73.5	31,402
		合計	759,119	849,388	775,780	54,814	83.6	54,814
	輸出台数		959,194	1,000,256	1,117,539	86,716	99.9	86,716
二輪	生産台数		1,780,654	2,015,940	2,120,738	177,822	91.7	177,822
	国内販売台数		1,606,481	1,792,016	1,856,814	154,003	116.3	154,003
	輸出台数		965,967	1,034,840	822,608	82,853	94.6	82,853
【完成車輪	出金額】(百	万パーツ)						
四輪			561,147	619,348	719,992	60,567	115.0	60,567
二輪			75,985	73,729	68,589	5,757	90.9	5,757

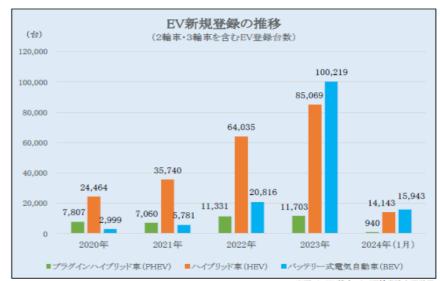
出所:タイ工業連盟(FTI)



出所:タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成



出所:タイ国トヨタ自動車のデータを基に作成



出所:タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、<u>弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。</u>また、こ こに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でな されるようお願い致します。